

開催地名：沖縄県糸満市	
開催日時	令和2年2月10日（月） 14：00 ～ 16：00
開催場所	糸満市役所
語り部	草 貴子 （宮城県仙台市）
参加者	糸満市職員、自主防災会、自治会役員、その他市関係団体 約70名
開催経緯	東日本大震災以降、一部沿岸地区では自主防災組織の活動が活発化するなど、共助の意識が強く芽生え始めている。しかし、時間の経過とともに、自主防災組織を新規結成する自治会等の動きは鈍くなり、防災意識に地域差が生まれている。今回、東日本大震災の語り部による講演を開催し、改めて防災についての意識を高め、今後の活動に役立てたい。
内容	（１）はじめに 東日本大震災だけでなく、あらゆる災害がもたらす悲しみや苦しみ、辛さは、できれば経験したくない。ここに住んでいて、大きな災害は来ないだろうと思っていたとしても、いつ、どこで災害が発生するかは誰にもわからない。もし被災しても、自分が得た知識や知恵を冷静に発揮することができれば、国が広める、市が広める、町が広める「防災」、「減災」への一助になるものと信じている。 （２）市名坂東町内会について 市名坂東町内会は、現在加入数186世帯の町内会で、働き盛りの40～50代の方の比率が高く、単身赴任の家庭が多い環境のため、必然的に私たち女性が立ち上がり、作り上げた町内会である。 町内会では、地域住民相互の連帯・協調・主体性、防災活動、子育て支援とふるさと作りの3つのスローガンを掲げた。防災に力を注ぎ、併せて、身の丈にあった町内会、オリジナリティーのある町内会を目指し、活動を行っている。 （３）震災での気づき まちづくりは人づくりであり、人づくりは、人と人とのつながりである。そして、弱者は老人、障害者、子どもだけではない。乳飲み子を抱えたお母さんも弱者である。手作りポスターを作ったり、集会所で開催している茶話会について口コミをしたりと、お母さんたちに集まってもらい、地域で様々な活動を行っている。また、防災訓練も開催し、濃煙体験や、防災・減災に関するクイズ、消火訓練等も行っているほか、鍋ややかんをおたまで叩きながら「助けて！」、「火事だ！」と大声を出す訓練も実施した。消防署の皆さんの指導の下、簡単に誰もが行える訓練を、大人から子供までが参加して実施している。 様々な取組の中で、コミュニケーションだけでなく、防災と減災について考えて頂くようにしている。震災時、お店やガソリンスタンド、病院等の位置がよく

わからなかったということから、防災便利マップを作成したり、お祭りの収益金の一部をあしなが育英会を通じて、津波遺児に寄付をしたりもしている。

東日本大震災が起こった時、お母さんは何を感じ、どうしていたか。いつ起こるかもしれない災害に備え、お互いが知恵を出し合って、完璧な答えが出なくても、その過程を大切に、少しでも前に進めていきたい。人として、女性として、お母さんとしての重要な役目があるが、それをお手伝いするのもまた、わが町内会が望む、つながり子育て支援の一環であると自負している。

(4) むすび

誰もが経験したことのない、1,000年に一度と言われる大震災の中で、それぞれの役目をみんなが自分なりに一生懸命果たした。子供だから、男性だから、女性だからとかではなくて、私の役目、貴方の役目、みんな違ってそれでいいと思う。

私はこれからの自分の役目は何だろうかと、いろいろと考えてみた。東日本大震災というとても惨い災害を経験して、人間の無力さ、生命の尊さと儚さ、哀しみの受け止め方、人の優しさを感じた。生かされている私達は、しっかりと生きなければならないと改めて思う。自然災害に立ち向かうことは難しいけれど、「防災」や「減災」について考え、実践すること、そして一時、一瞬を大事にしていくことが重要であると思う。



開催地より

日頃の活動が、災害時の防災活動につながることを改めて感じた。また、それをまとめるリーダーの育成、組織作りや意識改革の重要性を学べた。